

国境なき医師団 報告書



「私には喜びも、心の平和もない」

性的暴力がおよぼす医学的、心理社会的および社会経済的影響
コンゴ民主共和国東部

© Jodi Bieber

(2004年4月作成)

この報告を、コンゴ民主共和国の国民および戦争の被害者すべてに捧げる。また、性的暴力の被害者の苦しみに関心が集まるよう取り組む MSF に対し、その体験を聞かせてくれた被害者全員に感謝する。

本報告中、「MSF」は原則として国境なき医師団 (MSF) オランダ支部を指す。掲載されている写真と証言者との間に関連はなく、証言者の匿名性は守られている。患者たちの意見は MSF の見解を示すものではない。

目次

序論	P 3
1 バラカでの7年にわたる苦しみ	P 5
2 戦争の道具としての性的暴力	P 8
3 性的暴力の医学的影響	P 12
4 性的暴力の心理社会的影響	P 15
5 性的暴力の社会経済的影響	P 17
結論：解決への道	P 19



「その夜、私は夫と子どもたちと一緒に家にいました。突然、村が襲撃されました。夫はどうか逃げ出しましたが、私は妊娠8ヵ月でした。走る体力はなく、それに子どもも一緒でした。子どもを守るために、逃げることはできませんでした。武装した3人の男が家に入ってきて、私の服を引きちぎり、私は子どもたちの目の前で全裸にされました。男たちは私を銃の台尻で殴り、そして私をレイプしました。3人の男全員が、子どもの目の前で……。私は気を失ってしまいました。夫が家に帰ってきて、近所

の人々を呼び、私を診療所に連れて行ってくれました。でも、胸は殴られたせいでまだ痛みます。膣にも異様な感覚が残っていて、突然体の外に飛び出してしまうような感じがします。何か病気を移されたのではないかと不安で、夜も眠れません。レイプされたときにお腹にいた赤ちゃんは、いつも病気がちで、よく下痢をします。この事件があってから、夫は私をレイプした兵士の妻と呼んで蔑み、家で寝ないことさえあります。私には喜びも、心の平和もありません。」

2003年1月に暴行を受けた女性、23歳

序論

コンゴ民主共和国（以下コンゴ）東部、タンガニーカ湖畔に位置する南キヴ（Kivu）州のバラカ（Baraka）とその周辺地域では、1996年に紛争が勃発して以来、苦難に満ちた生活が続いている。住民は、コンゴ、ルワンダ、ブルンジなどの様々な武装勢力間の戦闘に巻き込まれて、残忍な殺害、虐待、略奪にさらされ、幾度もの避難と極限の苦難を強いられてきた。医療へのアクセスを奪われ、慢性的な食糧不足にも悩まされるバラカの住民は、国際社会から見捨てられた無力な存在となっている。紛争が中断した2002年8月、MSF



はバラカに病院を開設する準備を始めた。しかしそこでチームが直面したのは、性的暴力¹という、すべての武装勢力が働いてきた、残虐な戦争のもうひとつの側面だった。レイプやその他の性的暴力が、あらゆる年齢層の女性、少女、男性に対して加えられた。現在コンゴでは和平が進められているが、戦争によってもたらされたこの恐るべき事態の真の広がりと重大さは、明らかにされ始めたにすぎない。

MSFは今も続くこの苦難の広がりには衝撃を受け、2003年7月に開設されたバラカの救急病院で、性的暴力の被害者の治療を開始した。同年8月から2004年1月までに、550人を超す被害者が診療を受けたが、遠くに住むため治療を受けられずにいる人は、さらに数百人にのぼることが推測された。性的暴力は医学的に様々な悪影響をもたらし、HIV/エイズ感染の広がりや、リプロダクティブ・ヘルスに関する合併症などが懸念される。恐怖や悪夢、心因性の体の痛みは、性的暴力の被害者が経験する心理社会的問題の一部にすぎない。女性にとってレイプは、夫、さらには社会全体からの拒絶を意味することも多い。孤立感と羞恥心に苛まれ、被害者は1人で生きていくことを余儀なくされ、様々な社会経済的困難に苦しめられる。

MSFはこの報告を、コンゴ東部で性的暴力が引き起こした医学的、心理社会的および社会経済

¹ 性的暴力についての国際的に認められた定義はないが、本報告においては、レイプ、性的奴隷、強制された売春と妊娠など、コンゴでの戦争中に頻繁に生じた暴力が含まれる。

的影響に対する関心を高めるために作成した。報告は、バラカでの活動を通して集められた医学的データおよび証言に基づいて作成されているが、バラカはこの災禍に苦しめられた唯一の場所ではない。2003年7月に暫定政権が樹立されて以来、和平に向けて大きな前進がもたらされ、戦闘が止み、市民への攻撃が減少した場所も多々ある。しかし戦争が残した遺産、性的暴力の広がり深刻さは、表面化してきたばかりである。性的暴力の発生は、減少してはいるがなくなっておらず、住民の生活にもたらされた傷は極めて深い。

現段階で重要なことは、地域、国、国際社会のそれぞれのレベルで、性的暴力の加害者がほとんど罰せられていないという問題に取り組み、このような事態の再発を防止するために必要な方策をとることである。また性的暴力の被害者が日常生活に復帰し、地域社会における居場所を完全に取り戻すことができるよう、被害者への偏見とも闘わなければならない。コンゴの政治情勢が改善しつつある今、責任ある立場の人々がこのような残虐行為に終止符を打つために行動することが急務である。武装勢力が加害者を罰せずにいる間は、レイプがなくなることはない。



「私は自分でも恥ずかしく不名誉なことだと感じているので、この話をするのは初めてです。当時私は、戦火を逃れて茂みのなかで暮らしていました。ある日、食べ物を採るために畑に行きました。畑を耕していると、誰かが大声で叫ぶのが聞こえ、その直後、武装した男たちが目の前に現れました。逃げようとしたのですが、1人の男に手を引っ張られ、殴り倒されました。動いたら殺すと言われました。男は私の服をはぎ取り、私を殴り始めました。そして私をレイプしました。男はまた、指を私のなかに突

っ込んで、もしナタがあったなら切り付けたと言いました。私は激しく泣き、年老いてからこんな仕打ちを受けたことに苦しみました。裸であることを隠すため、夜になってから家に帰りました。年のせいで、膣のなかと骨盤がひどく痛みました。しかし何よりも悔しくてたまらず、このことを思い出すたびに泣いてしまいます。」

2002年1月に暴行を受けた女性、70歳

1 バラカでの 7 年にわたる苦しみ

バラカのあるフィジ県は、コンゴ東部南キヴ州を構成する 8 つの県の 1 つである。タンガニーカ湖に面した州内の南東部に位置し、面積は 1 万 5,786 平方キロメートル、推定人口は 27 万 5 千人である。主な経済活動は農業で、湖岸の村では漁業も行われてきた。近くのウブワリ (Ubwari) 半島は、金やコルタンなどの鉱物資源が豊富なことで知られている。

アフリカ初の「世界戦争」と呼ばれてきたように、バラカ周辺では以前から、近隣諸国の支援を受けた様々な民族グループの間で緊張や戦闘が生じていた。武装勢力は住民を殺害、虐殺したため、多くの人々がタンザニアに逃れた。1998 年以降、戦闘が著しく激化してからは、コンゴ東部全域が大混乱に陥り、住民がその主な犠牲者となった。バラカでは、2003 年の始めから半年間、2 つの武装勢力の間で大きな衝突が続き、350 発を超える迫撃砲が飛び交った。和平実現に向けた政府の 2003 年の努力は、国軍に同化しつつあった武装勢力の間での合意形成というかたちで実を結んだ。しかしながら緊張は今も続いており、元兵士らのほとんどはまだ武装解除されていないため、フィジ地域は変わらず危険な状態にある。

栄養失調と医療へのアクセスの欠如

暴力と激しい戦闘の繰り返しにより、地域の人々の生活に恐るべき影響がもたらされてきた。安全の欠如、組織的な略奪、そして絶え間ない避難により、人々は耕作をすることができなくなり、栄養失調が何年も続いてきた。戦闘が減少し、以前よりは畑仕事も再開しやすくなったが、武装グループは農作物の略奪を続けている。タンザニアに逃れていた 10 万人以上の難民がこれから帰国すると予想されるため、食糧事情は今後何ヵ月かにわたって悪化する可能性がある。

「内戦の間、保健センターでは常に医薬品が不足していました。バラカの住民は対策として、少しでも余裕があるときにお金を出し合い、ウヴィラ (Uvira) で医薬品を買えるように備えていました。費用回収制度があるため、資金を出した人はそれを回収することができましたが、お金のない患者はパーニュ²や靴などの持ち物で払いました。でも、まったく誰もお金を持っていないときは、ブンバ・ファー (Bumba Phars) と呼ばれる露天商に診てもらうしかありませんでした。露天商たちは、儲けることだけが目的なので、看護についての教育さえ受けていないのに自分で作った処方箋をつ

² コンゴの女性が着用する布

けて薬を売っているのです。その当時、住民は森のなかに住んでいて、常に蚊の襲撃にさらされ、雨や寒さに対して備えることもできなかったので、マラリアや貧血、呼吸器感染症によくかかっていました。」

2003年11月、医療従事者、バラカ

フィジでは保健医療制度が完全に崩壊し、医薬品の略奪が広く横行したため、医療をまったく受けられない事態が何年も続いた。2003年半ばに NGO の活動が増加するまでの間、住民は最も基本的な医療サービスすら受けられず、病気の流行が蔓延した。現在は、フィジ地域にある33カ所の保健センターのうち、26カ所がどうか機能している。しかしその多くには、聴診器や顕微鏡などの医療機器がまったくない。NGO の支援を受けていない保健センターには、医療物資が不定期に届けられることもあるが、多くの場合は全く届けられていない。

「1ヶ月前、7年間も行方不明だった兄がバラカに現れました。軍がバラカに突入したとき、パニックのなかで別々の方角に逃れて以来、行方がわからなくなっていたのです。兄は、別の勢力が支配している地域へ出ると背信行為として罰せられる恐れがあるので、ずっと森で暮らしていたそうです。森のなかで何年も医療を受けられなかったため、兄は重い病気にかかっている、先週死んでしまいました。」

2003年11月、男性、バラカ

主要な問題の1つが、リプロダクティブ・ヘルスである。WHO の報告によれば、コンゴでは10万人あたり1,837人の女性が出産時に死亡している。これはアフリカ諸国の平均の3倍にあたる数字である³。また戦争にともなう食糧不足や避難で悪化する栄養失調、貧血、マラリアなどの病気により、妊娠合併症のリスクはさらに高くなる。コンゴの肉体労働者の日給は約2.5米ドルだが、多くの場合救命のために行われる帝王切開は、約40米ドルもかかる⁴。今日でも多数の人が、適切な医療を



© Jodi Bieber

³ DRC Health Up-date, World Health Organisation, July 2001

⁴ 2003年12月における費用

まったく受けられないまま、森のなかにいると考えられている。

「その夜 2 時頃、村が襲撃されました。5 人の武装した男が家のなかに入ってきました。夫と子どもたちもいましたが、男たちは私だけを捕まえて藪のなかに入れて行きました。彼らは私を地面に横たわせ、脚を広げさせました。そして、5 人全員が私の上にまたがり、欲望が満たされるまで私をレイプしました。すべてを終えると、彼らは私を村に帰しました。襲撃で家は燃やされ、子どもたちは逃げた後でした。夫の姿が見当たらず、後に茂みのなかで遺体となって発見されました。8 ヶ月前のことですが、いまだに胸や体中に激しい痛みを感じます。」

2003 年に暴行を受けた女性、32 歳

2 戦争の道具としての性的暴力

性的暴力は、コンゴ東部における戦争と人道的危機が引き起こしたもっとも悲惨な結果のひとつであるにもかかわらず、これまで十分な関心が払われてこなかった。ヒューマン・ライツ・ウォッチ（Human Rights Watch）は、2002年の報告書で次のように取りあげている。



「コンゴ東部における紛争のなかで、紛争当事者はもうひとつの戦争を引き起こしている。つまり、女性や少女に対する性的暴力である。（中略）この紛争に關与する武装

勢力のほとんどが、性的暴力を戦争の道具として用いてきた。コンゴ民主連合（RCD）の戦闘員、ルワンダ人兵士、また彼らと対立する勢力（マイマイ、ルワンダ人フツ族の武装グループ、民主防衛軍 [FDD] や国民解放戦線 [FNL] などのブルンジ反政府勢力）の戦闘員は昨年、頻繁に、ときには組織的に女性や少女をレイプした。」⁵

6 ヲ月で 550 人の犠牲者を治療

MSF がバラカの町に救急病院を開設したとき、地元の女性グループはこの地域で数百人もの女性が性的暴力を受けたと訴えた。MSF が性的暴力の被害者の治療を開始すると、連日多数の女性と数人の男性が診療に訪れるようになった。2003年の8月からバラカの病院で MSF の治療を受けた被害者の数は、550人以上にのぼる⁶。コンゴ東部における性的暴力の広がり範囲は明らかではないが、ここにあげた数字から、その規模が数千人とはいわなくても数百人に達することがわかる。以前より減ったとはいえ、今も少なからぬ数の被害者が MSF の診療所を訪れる。また治安の悪さや診療所の遠さなどの理由で、診療所に来られない犠牲者が多数いるという報告も受けている。以前は戦争のために閉ざされていた地域に行くことができるようになった今、コンゴ東部における性的暴力という問題の真の深刻さが明らかになりつつある。

⁵ Human Rights Watch, The War Within The War, June 2002, p.1

⁶ この報告が作成された2004年1月までの数字

「1週間前のその日、私は夫と2人の女性と一緒に畑で働いていました。すると突然、武器を持った男たちが近づいてきました。夫はかろうじて逃げることができましたが、私は2人の男に捕まり、レイプされました。男たちは私の背中を殴って汚い言葉を浴びせかけました。本当に、もう命はないと思いました。その日から腹部がひどく痛み、よく頭痛もします。とくに、突然あの出来事が思い出されるときにひどくなります。あれから畑には戻っていません。武器をもって、こういったひどい仕打ちをするかもしれない男たちが現れなくなるまで、戻りたくありません。でも私には7人の子どもがいて、畑だけが唯一の生活の手段です。幸い、その場にいた夫は私に何が起きたのか理解してくれています。夫は、暴行が無理やりであったと知っています。それでも私は恥ずかしさに耐えられません。外に出ると、みんながあの子供のことを知っているような気がして、心臓がドキドキします。こんなに恥ずかしさに苦しめられるくらいなら、いっそあの日殺されてしまえばよかったとさえ思います。」

2003年10月、女性、35歳

このエピソードは、MSFが診療した被害者の体験の典型的な例である。MSFは、治療に加えて、体験を打ち明ける心積りのあった被害者から証言を集めた。これらのエピソードから、この問題の規模と深刻さがわかる。



© Jodi Bieber

暴行の場所について語った人の半数以上が、他の人と畑を耕している最中に襲われたと話した。たいていの場合、襲撃者は武装した数人の男で、被害者はその場で捕まえられ、ときには激しく殴られてレイプされたのち、倒れたまま放置された。自宅でレイプされたという被害者、危険が迫ってきたので森に逃げ込んだところ、レイプされたという被害者も相当数にのぼる。多くの女性が、夫や子ども、家族の面前で辱めを受けたと証言した。34歳の女性は畑で暴行されたうえ、15歳の娘が暴行を受けるのを無理やり見せられた。

「娘が逃げようとしたとき、男たちは娘を殴りつけ足を銃で撃ったのです。3人もの

男が暴行に加わりました。私はとてもショックを受け、何としても娘を守りたかったと悔やみました。娘はまだ処女でした。」

性的暴力の鋒先は男性にも向けられた。被害にあった45歳の男性が語った。

「あの事件から1年になりますが、私は今だにレイプの後遺症に苦しんでいます。あれからというもの、左の腹部が激しく痛み、ひどい頭痛にも悩まされ、おまけに絶えず肛門から出血するのです。働くこともできないし、食欲もわからない。何よりも性欲がなくなりました。私は性的不能になったのです。」

軍事戦略

暴行が発生した時期は、2000年の2月から、この報告が作成された2004年の1月までにわたる。暴行の発生件数と地域の不安定化の間には明らかな相関関係がある。襲われた日を正確に報告した患者の40%が、被害にあったのは2003年の1月から8月の間だったと述べた。この時期は、バラカが集中的に砲撃を受け、民兵組織の活発化がみられた時期にあたる。すべての武装勢力が広い範囲で性的暴力に関与した。敵対する勢力を支持しているとみなされた村落の人々に恐怖を与え、懲罰し、辱める意図があるという点で、性的暴力は戦争の道具のひとつだといえる。性的暴力は武装勢力の軍事戦略と明らかに関連しており、また一貫したパターンを持って発生しているため、これを単なる戦争の副産物にとらえることはできない。紛争時には、女性は暴力をより受けやすく、人々は常に避難を強いられるため、平常は保たれている社会の抑制力が消失してしまう。地域社会の基盤が崩壊したまま、加害者も裁かれずにいるため、戦闘が減った今日でさえ、性的暴力の発生は続いている。

被害者の年齢は、12歳の少女から70歳の年配の女性まで幅がある。MSFの診療所を訪れた患者のうち、最年少者は10歳の少年であった。この少年は、母親が2人の男に暴行されている間、別の武装した男にレイプされたのである。数人の男が加わる「集団レイプ」の例も多い。加害者の数をあげた患者の75%が、1度に2人から5人の男に襲われたという。MSFが治療した女性のうち5人は、複数回、つまり1度だけではなく2度、もしくはそれ以上にわたって暴行を受けていた。ある女性は、3年のあいだに3回の暴行を受けたと打ち明けた。

性的暴力の加害者がその罪を問われることはほとんどない。加害者が裁かれる日が来るかはわからない。しかし次からの章で報告されるように、性的暴力の医学的、社会心理的、社会経済的な影響は、一生ではないとしても多年にわたって続くのである。



© Jodi Bieber

「ある日、私は森で薪とキャッサバの根を探していました。見つかったので帰ろうとしたとき、武器を持った2人の男が現れました。彼らは銃の台尻で私の顔を殴りました。私は薪を投げつけて逃げようとして、でもつまずいて倒れたところを捕まり、衣服をぜんぶ取られました。ひとりの男が私をはがいじめにし、喉元にナイフを突きつけている間、もうひとりの男にレイプされました。彼らは悪態をついて私につばを吐きかけました。その間中、夫がどう思う

だろうかと考え、そして死を思いました。あれ以来、排尿のときに痛みがあり、腹部も痛みます。膣を大きく広げられたような感じがします。気力もなくなり、夫にはものしられます。夜は悪夢を見ます。神は私をお見捨てになったのだという気がします。」

2003年3月に暴行を受けた女性、25歳

3 性的暴力の医学的影響

戦争中は、暴行を受けた女性のほとんどが、みずから治療を探し求めようとはしなかった。その理由は、適切な医療サービスがなかったから、羞恥心のため、具合が悪すぎたので、事件の直後に緊急手当を受けるには遠くに住んでいたから、など様々である。治療が開始された今、広い範囲で横行した性的暴力の医学的影響が明らかになりつつある。

HIV/エイズと性感染症の増加

強要された性交には傷や出血が伴い、通常の性交と比較してウイルス感染の可能性が高く

なるため、レイプにより HIV/エイズに感染する危険は極めて高い。またとくに少女は、性的暴力により深刻な身体的損傷を受ける可能性がある。最近の推計では、南キブにおける HIV 感染率は 20% にのぼる⁷。この増加には、性的暴力が大きく影響をおよぼしているといえる。



© Jodi Bieber

「2 年前にレイプされた後、フィアンセから婚約を破棄され、それ以来誰ともつきあっていません。エイズに感染しているのではないかと疑われているからです。とても心配です。わたしを襲った連中が病気を持っていなかったと、誰が言いきれるでしょう？あまりに心配で、夜になると事件を思い出します。レイプは人殺しと同じです。」

21 歳の女性、2003 年 11 月

MSF の診療所を訪れる患者のほとんどが、腹部の痛みと性感染症の恐れを訴える。MSF は臨床的な診断を行い、患者の症状に基づいて治療をする。性感染症は、慢性的な痛みの原因となるほかに、不妊につながることもある。

リプロダクティブ・ヘルス

レイプによる妊娠のため、墮胎を余儀なくされる女性もいる。MSF では、ほぼ確実に墮胎が原

⁷ 国家エイズ対策計画ディレクター、Francois Lepira 医師による。国連総合地域情報ネットワーク (IRIN)、2003 年 11 月 5 日

困とみられる骨盤の炎症性疾患の例を確認している。リプロダクティブ・ヘルスに関する問題としては他に、生理不順や生理異常、妊娠遅滞などがこれまでに報告されている。性欲の低下や性交痛はとくに頻繁に見られ、家庭や異性との関係を大きく損なう。

「私たちは村から逃げて、戦争から身を守れるよう、森に小さな小屋を建てました。夫と家族が一緒でした。ある晩、武装した男たちが小屋を略奪しにやって来ました。男たちは、私と家にいたもうひとりの女性を連れ出しました。しばらく行ったところで、4人の男にレイプされました。もう死ぬのではないかと思いました。次の日、武器を持った3人の男が家にやって来て、金をよこせと言いました。昨日略奪されたばかりで何も残っていないと言うと、彼らは『思い知らせてやる』と言いました。そして私ともうひとりの女性は、3人の男にまたレイプされたのです。そのとき私は妊娠2ヵ月でしたが、4ヵ月後に流産しました。それ以来、身体がひどく痛み、とくに腹部と背中が痛みます。気力もわきません。子どもは欲しいのですが、事件があってから、健全に子どもを産める状態にない気がします。夜はよく眠れますが、武器を持った男を見るたび、恐くてたまりません。」

2001年8月に暴行を受けた女性、23歳

性的暴力を受けたとき、妊娠中だったと思うと報告する被害者もいる。被害にあったときに妊娠していたと考えている51人の患者のうち、およそ35%が妊娠中に様々な問題を経験している。レイプの影響としては、直後あるいはしばらく後の流産、新生児の死亡、先天性異常などがある。兄弟・姉妹と比較して小さく弱いと考えられる子どもは、「虚弱」と形容される。性的



© Jodi Bieber

暴力と妊娠・出産機能の低下との間に、直接的な因果関係は証明されていないが、多くの女性たちは関連があると考えている。たとえば、レイプは母乳を汚すと広く信じられているため、被害にあった母親は母乳を与えなくなり、結果として新生児の命を危険にさらす。また、数知れないほどの墮胎が、密かに行われている。

「2ヵ月前のあの日、私は畑にキャッサバの葉と薪を取りに行きました。突然男が現れ

て、私に声をかけました。近くに寄ると、『ひとりか?』と聞かれました。そして別の男が現れ、『もし俺たちとセックスしたがないなら、殺してしまおう!』と言いました。殺されると聞いたとたん、心臓が止まったように感じました。そしてこの 2 人に為されるがまま、レイプされました。そのとき私は妊娠 7 ヶ月だったのですが、その晩にやっと家に戻ってから、流産してしまいました。」

2003 年 11 月、女性、26 歳

MSF は、これらの性的暴力の被害にあった女性たちに医療を提供している。緊急避妊薬が投与されるほか、レイプ後 72 時間以内に診療を受けに訪れた場合には、HIV/エイズ感染の予防として暴露後予防措置 (PEP) が施される。被害を受けてから診療までに 72 時間以上経過してしまうと、医療面でできることはあまりない。患者がすぐに診療所を訪れることが重要なため、地域の住民と保健医療に従事する人々への教育が大きな意味をもつ。

身体的損傷

被害者の多くは、何らかの身体的損傷、たとえば体中の傷みや、武器、棒、こぶしなどで殴られた部分の痛みを訴える。また、足を無理やり乱暴に押し広げられたため、腰と背中 of 関節痛を訴える人も多い。レイプされたときに感じた苦痛は、被害者の体と心に数年経っても消えない傷跡を残す。被害者は気力が萎え、汚され、病んでいると感じる。たとえ身体的な症状がみられなくても、心の傷は残る。

「昼間、あの事件について考えることはありません。でも夜になると思い出し、不眠と悪夢に悩まされます。あの瞬間がたびたび夢のなかでよみがえり、目が覚めてしまうのです。その度に再び眠りにつけるよう祈ります。」

1 ヶ月前の 2003 年 11 月に暴行を受けた少女、17 歳

4 性的暴力の心理社会的的影響

バラカで活動する MSF の精神科医は、次のように話す。「一般市民に対する暴力の果てしない連鎖が、新たな暴力の引き金となることがあります。無力感や不満、怒りなどの抑圧されていた感情が、地域社会や家庭という場であらわになるのです。それが新しい暴力の連鎖につながることもあります。」

性的暴力によるトラウマ体験が、患者の心理社会面および情緒面にもたらす影響は大きい。バラカで診療を受けた女性・男性には、心理社会的な問題を抱えていることを示す徴候が数多く見られた。それらは精神



疾患として現れることもあれば、恥辱感や罪悪感、睡眠障害、日常生活における困難、引きこもりなどのような目立たない形で現れることもある。また多くの女性・男性が、恐怖、不安、記憶の再現、フラッシュバックが続いていると訴える。このような現象は、殺されるもしくは手足を切断されるかもしれないという恐怖を経験したことによっている。日常的な体の不調や、食欲不振、性欲の欠如を訴える患者もいる。不安症で動悸が突然早まったり、悪夢などの睡眠障害による疲労で、日常生活に支障を来すこともしばしばある。

自尊心の回復

「ある日の昼過ぎ、私は夫と 2 人の娘とともに畑へ行きました。2003 年の 5 月でした。畑を耕していると、6 人の武装した男が突然目の前に現れました。彼らは夫を捕らえ、私と子どもたちの目の前で殺害しました。でもそれで終わりではありませんでした。2 人の男が私をレイプしたのです。男たちは代わる代わる私の上にもたがりました。子どもたちは泣いていました。私は意識を失いました。半分死んだような状態でした。その夜は子どもたちと畑で夫の遺体に寄り添って過ごしました。一晩中泣き明かしました。やがて何人かの猟師が現れ、私たちが家に帰る手助けをしてくれました。家は略奪されていました。それ以来、左足に強い痛みを感じるようになりました。」

立ち上がることも困難で、腹痛にも悩まされています。私も子どもたちもよく悪夢にうなされます。子どもたちはおびえ、畑に戻りたがりません。」

2003年11月、女性、40歳

MSF は心理社会的な診療を通して、人々に自分を悩ませる症状についての説明をしている。レイプが国際法廷でも処罰されうるような不法行為であるという事実が、多くの被害者にとって大きな意味をもつことがわかってきた。女性たちはこうした心理社会的な治療の場で、つらい経験を打ち明けることができる。なかには事件について話すのが初めてという人もいた。女性たちは思いを共有し、受けた苦痛を他者に認知してもらっただけでなく、安心感を見出し、実際的な助言を受け、自分の抱えるジレンマについて相談することができる。心理社会的な活動の目的は、治療や診療ではなく、患者の対処メカニズム（coping mechanism）や自己制御能力を強化・回復することにある。そのため、診療にあたった精神科医は、リラクセーション法や呼吸法などの自助メカニズム（self-help mechanism）を教えることに重点をおいた。被害者たちは、社会的なネットワークを活用することも学んだ。

治療は短時間（多くは1度限り）であるにもかかわらず、患者やその家族の反応から、診療後の患者は回復に向かっていることがわかった。彼女たちは沈黙を破り、助けを求めることで、回復に向けての道のりを歩み出すことがようやくできるようになったのだ。

「2002年8月にレイプされて以来、不安のなかで生きています。夫には見捨てられ、8人の子どものうち2人は飢えで死んでしまいました。私自身もやせ衰えてしまい、夜は眠れず、子どもの面倒をみる力もありません。夫は、私が回復したら一緒に暮してもいいと言いましたが、おそらく今ごろは新しい妻を迎えているでしょう。」

2003年11月、女性

5 性的暴力の社会・経済的影響

レイプの被害者となった女性は、肉体的、精神的な傷を受けるだけでなく、しばしば社会から白い目で見られ、ときには夫からも拒絶されてしまう。



偏見のため、家族からも社会からも完全に拒絶されることがある。ときには、辱めを受けたと強く感じる夫が、体面を重んじて事件については口を閉ざし、妻を家に留まらせることもある。その方が妻にとって多少は良いが、夫に事件のことを日々持ち出され、肉体的にも精神的にもぶつけられる怒りに耐えなければならぬ。

レイプの後、夫婦の間に無言の敵意が生まれ、緊張が高まるとあからさまな批難の言葉となって爆発することが多くあるようだ。ある 40 歳の女性は次のように語った。

「口論になると、夫は私をレイプした兵士の妻呼ばわりします。1 人にいるときにそのことを考えると涙が出てきます。このままではいつか家庭が崩壊してしまうのではないかと不安でたまりません。」

女性は続けた。

「夫に食べ物をくれないかと頼んだときには『森に行つて、おまえの夫に食べ物をもらえばいいじゃないか』と言われました。」

起きてしまった事実を受け入れ、妻の非力さに理解を示す夫たちもいる。

経済的困難

孤立し、肩身の狭い思いをしながら 1 人で生きていくことを余儀なくされた女性は、経済的な壁にぶつかる。食糧を手に入れなければならないが、彼女たちは再びレイプされることを恐れて、危険な畑には行きたがらない。ある 35 歳の女性は言う。「畑には二度と行きません。あやうく死ぬところだったのですから。」しかし、戦争により商業などの経済機会が完全に失われ、

農作物の栽培が食糧を手に入れる主な手段となっている状況では、畑へ行く以外に女性が子どもを養っていく方法はない。

「私は 1 週間前に畑でレイプされました。その日、同じ村の女性 4 人と一緒に働いていると、1 人の男に捕まえられました。身を守ろうとしましたが、頬をひっぱたかれ、強く殴られて地面に倒れてしまいました。男は私の服をひきはがし、横たわるように言いました。男がレイプし始め、私は殺されると思いました。しかしその後、男は『起きろ。もう行っていいぞ』と言っただけでした。夫は不在だったので、家族には強盗にあったとだけ話し、レイプされたことは言いませんでした。夫に話すかどうかはわかりません。たぶん聞かれない限り、話すことはないでしょう。彼が心のなかで何を考えているかわからないからです。あれ以来畑には戻っていませんが、もうじき行かなければなりません。それが 5 人の子どもを養うたった 1 つの方法なのですから。」

2003 年 11 月、女性

結論：解決への道

コンゴ東部の性的暴力の問題は、長い間放置されてきたが、ここ数年で解決に向けた取り組みがようやく見られるようになった。まず、一般市民への性的暴力が問題視されるようになった。また、被害者を支え、加害者が罪に問われない現状を変えるためには、より一層の努力が求められていることも広く認識されるようになった。こういった変化自体は喜ばしいが、この非道な行為の再発を防ぐための努力は、現時点ではまだ不足しているといわざるを得ない。

バラカの市民社会の素晴らしい活力のおかげで、たくさんの被害者がつらい経験から立ち直るための支援とカウンセリングを受けることができた。現在、医療施設が運営されている地域の住民は、医学的・精神的な治療を受けることができる。また、医療施設のない地域の被害者を支援するための努力も始められている。性的暴力の被害者を診る診療所では、被害者が沈黙を破る手助けをする準備も進められている。しかし大半の女性や男性、そして子どもたちは、依然として孤立した状態にある。このように破壊的な事態に立ち向かおうとしている社会の支援をさらに進めていく必要がある。

レイプの被害者への偏見と闘い、彼女たちが尊厳をもって生活を営むことができるよう、社会・経済的な支援も行う必要がある。地元の団体が小額融資やせっけん製造などの小規模なプロジェクトを構想しているが、資金が不足している。性的暴力が社会にもたらした混乱をこれ以上見過ごすことはできず、バラカの住民が復興への道を踏み出せるようにすべきである。

停戦合意がなされたにもかかわらず、この報告の作成期間中も、あらゆる年齢の少女、少年、男性、女性に対する性的暴力がコンゴ東部では続いている。この地域をめぐる政治状況は大枠では改善されつつあるが、過去 10 年間続いた紛争の遺産が明らかにされつつあるに過ぎないともいえる点が多くある。加害者が罪に問われずにいる事実を受け入れることは到底できない。政治家や軍の幹部が、この想像を絶するほど大規模な暴力と苦しみを終わらせる決意を持たない限り、性的暴力が止むことはないだろう。しかしその決意さえあれば、この恐ろしい武器が使われることはなくなるのである。

【コンゴ民主共和国での MSF の活動】

内戦の間放置され、コンゴの医療システムは完全に荒廃してしまった。MSF は感染症の流行や緊急事態に対処するとともに、何も持たない貧しい人々に対して、基本的な医療を提供してい

る。1981年に開始され、現在はすべてのオペレーション支部（ベルギー、フランス、オランダ、スペイン、スイス）が活動している。全国10州のうち8州と首都キンシャサで行われており、世界で最も大規模なプログラムのひとつとなっている。